

## 「第11回砂防林を育てよう」

11月6日（土）、酒田市の出羽遊心館向かいのクロマツ林（私有保安林）で、手鋸による枝打ち及び残材の運搬集積等の森林ボランティア活動に参加しました。

6日は海風が吹く少し寒さを感じるくもりの天気です。11月上旬としてはボランティア活動に最適な天候に恵まれました。

この活動は、酒田市立十坂小学校で行ってきた「砂防林づくり」の活動を市民ボランティアに発展させようと平成12年度から始められました。庄内砂丘のクロマツ林について、住民自らが参加し守り育てていこうという意識を高め、良好な環境を次世代に伝えて行くことを目的として掲げ、「地域の森林は地域の力で守り育てる」という趣旨を推進していくものです。

ボランティアの参加者は、朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター1名、庄内総合支庁、酒田市、庄内海岸林のクロマツ林をたたえる会、万里の松原に親しむ会、飯森山の緑と景観を考える会、北庄内森林組合、東北公益文科大学、酒田地域の建設業等関係者118名の皆さんが参加しました。

最初に参加者全員で記念撮影を行いました。次に参加者の皆さんは、1班から4班に分けられ、決められた作業場所で班長の指示のもと作業を行うことになりました。このボランティアの特徴として、東北公益文科大学の男女の学生が各班長を務めたことです。班長からすれば、自分の親や祖父母の世代を指導する重責を担うことになりました。枝打ち作業などしたことのない班長がほとんどでしたが、ボランティアに向けて勉強したことや経験豊富なスタッフの盛り上げて活躍しました。普段のボランティア活動ではリーダーの指示など何処吹く風の大人達もいるものですが、特に女子大生班長の指示に班員全員が従ったお陰で、クロマツ林の枝打ちと枝等の運搬集積作業は予定時間よりも早く終わりました。

ボランティアの参加者からは、農地や住まい等を砂や強風から守ってくれるクロマツ林に早くなるように願いが込められました。綺麗になったクロマツ林を眺めた参加者達の顔には達成感で充実した表情が現れていました。

最後に、参加者全員がヘルメットの中の汗と鋸のヤニを拭き取りボランティアが終了しました。



朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター